

コナガ情報第1号

平成30年12月27日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

春先の発生に備えて防除を！

1 発生状況

12月下旬に実施した巡回調査の結果、キャベツにおけるコナガ（図）の寄生株率が3.8%（平年 1.0%、前年 1.3%）、発生ほ場率が44.4%（平年16.6%、前年38.9%）で、ともに過去10年と比較して最も高くなりました。

2 防除対策

- (1) コナガは、春先に気温が高くなると成育が早くなり、発生量が増加するため、今のうちに防除しましょう。
- (2) ほ場での発生状況をよく観察し、適用のある農薬で防除しましょう（表）。周辺に収穫間際の作物がある場合は、特にドリフトに注意し農薬を散布しましょう。
- (3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、IRACコードを参照に同一系統の薬剤を連用しないよう注意しましょう（表）。
- (4) ジアミド系（IRACコード：28）やオキサダイアジノン系（IRACコード：22A）等の農薬について、栽培地域で防除効果の低下が疑われる場合は、別系統の薬剤を散布しましょう（表）。
- (5) 発生が多いほ場は、周辺ほ場への発生源になるので、収穫終了後は残渣を速やかにすき込みましょう。

表 コナガに対する主な防除薬剤

農薬名	使用時期	IRACコード
トルネードエースDF	収穫7日前まで	22A
スピノエース顆粒水和剤	収穫3日前まで	5
ディアナSC	収穫前日まで	5
アフーム乳剤	収穫前日まで	6
ベネビアOD	収穫前日まで	28
トアローフロアブルCT	収穫前日まで	11(A)
フローバックDF	収穫前日まで	11(A)
エスマルクDF	収穫前日まで	11(A)

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2018/mechanism_irac03.pdfを参照する。
農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。

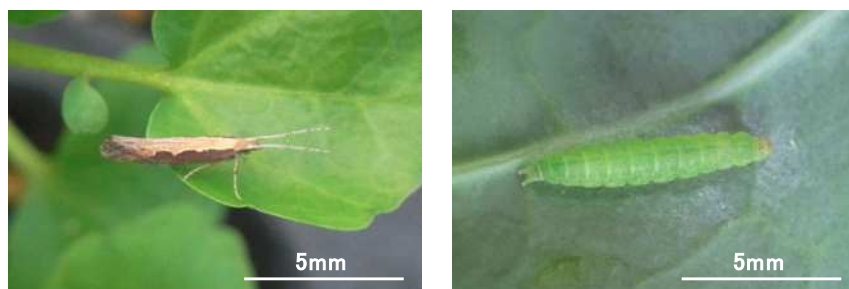


図 コナガ成虫（左）および幼虫（右）